

教育WG

提言 1. 対話型ワークショップの実践

【アクションプラン】

○主に大学生を対象とした対話型ワークショップの実施

現在の日本の教育現場では、他者との対話・議論をする機会が少ないとの課題意識に基づき、次世代を担うユースが、他者との対話におけるアプローチ・手段を学ぶことができるトレーニングワークショップを、ESDの一環として実施する。

【取組結果】

当初の計画通り、以下のイベントを実施した。

- 大学生を対象とした対話型ワークショップ「対話型・平和構築ワークショップ～多文化共生社会の実現のために～」（令和5年1月）
- ユネスコウィーク*に合わせた対談イベント「Envisioning the Future 未来を描く舞台芸術～多文化社会における舞台芸術の可能性～」（令和5年2月）

両イベントともに、異なる意見を持つ他者との対話の機会、そして、身近な社会・文化的多様性に気づく機会を創出することを目的として設定した。また、第2期ESD国内実施計画で挙げられている、多様なステークホルダーを巻き込むことの重要性、ユースのエンパワーメントと参加の奨励、地域レベルでの活動促進、またESDが目指す持続可能なまちづくりの実現を意識し、企画・実施に努めた。

*ユネスコウィーク：国内ユネスコ活動の成果の国内外への戦略的発信を目的に、ユネスコ未来共創プラットフォーム事業により、令和5年2月に開催されたイベント。

【振り返り】

課題としては、ユネスコに係る既存のネットワーク以外へのアプローチが難しかった点が挙げられる。今後は、上記取組での経験等を活かし、ユネスコに係るネットワークを拡大することを意識しながら、ESDの推進をはじめとしたユネスコ活動へのユースの参画に尽力していきたい。



イベント実施後の集合写真

科学WG

提言2. ユネスコエコパーク及びユネスコ世界ジオパークへのユースの積極的な参画

【アクションプラン】

○各登録地域でのユースアンバサダーの任命

○登録地域におけるユースの学術研究フィールドワークの推進

ユース世代におけるユネスコエコパーク（以下「エコパーク」という。）及びユネスコ世界ジオパーク（以下「ジオパーク」という。）の認知度が低く、活動の活性化が難しいことから、その解決を図る。

【取組結果】

まず、現状を把握するため、エコパークやジオパークの担当職員等とユースの参画状況等について意見交換を重ねた。その結果、初等中等教育段階における環境教育を通じて興味関心を養う取組が進められている一方、大学進学等のライフステージの変化により地域との関係が薄れる若者が多いという課題が明らかになった。この点を踏まえ、まずは次世代構成員自身が、SNSやウェブサイトを通じて、若者が地域の魅力に気づき、エコパークやジオパークに関心を持ち続けられるような情報発信をすることで、より効果的に認知度を向上できると考えたことから、アクションプランの見直しを行った。

【振り返り】

今後は、今年度構築したエコパークやジオパーク関係者とのつながりを活かして、科学分野をはじめとした、ユース世代のコミュニティ構築に尽力していきたい。



第12回日本ジオパーク全国大会に参加



糸魚川ユネスコ世界ジオパーク訪問&取材

文化WG

提言3. 「ユネスコ創造都市ネットワーク」事業へのユースの積極的な参画

【アクションプラン】

○創造都市事業と他のユネスコ事業（特にユネスコスクール）との連携促進

○ユース世代を対象とした「ユネスコ創造都市ユースサミット（仮称）」の開催

ユネスコ創造都市ネットワーク（以下「UCCN」）事業と他のユネスコ事業、特にユース世代との関わりが深いユネスコスクールとの連携を強化し、ユネスコ活動のシナジー効果を発揮させる。これにより、UCCN事業の知名度向上やユースの参画の促進を図る。

また、既にいくつかのUCCN国内加盟都市において、ユース世代が主体的・積極的に関わる事業が展開されていることを踏まえ、先進的な事例共有や国内外ユース間の連携促進を図る。

【取組結果】

アクションプランの実現に向けて、各都市の創造都市関係者や事業に参加するユース世代とのネットワークを広げるべく、以下2点を実施した。

- 国内加盟都市である旭川市、山形市、神戸市への訪問及び関係者との意見交換
- 国内加盟10都市におけるUCCN事業の現状やユース世代の参画に関する情報収集を目的とした、アンケート調査

上記取組により、すべての国内加盟都市においてUCCN事業の重要なアクターとして「ユース」を重視しており、一部の都市においてはユースが主体的・積極的に関わる先進事例を見ることができた。一方で、他のユネスコ事業との連携は極めて限定的であることがわかった。

【振り返り】

上記取組により、UCCN事業に関する現状を知り、関係者とのネットワークを広げることができたが、アクションプランの実現及び各都市のユースとの直接的かつ緊密なネットワーク構築には至らなかった。

引き続き、多くの国内外の加盟都市やユースとつながり、UCCN事業の潜在的な可能性を引き出す活動を行なっていきたい。



令和4年11月吉日

国内ユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市
ご担当者各位

次世代ユネスコ国内委員会 文化グループ

ユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市の創造都市関連事業における
ユースの位置付けおよびユース世代の取り組みの照会について（依頼）

記

- 1 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、御都市においてどのように創造都市関連事業を展開されておられるでしょうか。また、昨今特に注力されておられる具体的な事業はどのような取り組みでしょうか。
- 2 御都市において、創造都市事業と他のユネスコ事業(特にユネスコスクール)の連携事例があるようでしたら教えてください。
- 3 御都市の創造都市活動の推進においてユース世代やユース世代の参画をどのように位置付けておられるでしょうか。また、ユース世代の参画促進に向けて講じられている施策があるようでしたら教えてください。
- 4 御都市において創造都市関連事業に積極的・主体的に取り組まれているユース世代の個人・団体があるようでしたらご照会いたします。

以上

アンケート調査を実施



プラットフォームWG

提言4. 「ユネスコ未来共創プラットフォーム」へのユースの参画

【アクションプラン】

- ユースによるユネスコ関連組織と、ユースからのコンタクトを歓迎する団体リストの作成と周知
- 「ユネスコ未来共創プラットフォーム」上にユース専用ページ「ユースページ（仮称）」を設置
- 「次世代ユネスコユースフォーラム」の実施

ユースによるユネスコ関係団体に関する情報アクセスの向上、ユースに向けた情報の集約、ユース間の交流促進を目指す。

【取組結果】

アクションプランの実現に向けて、以下の取組を行った。

- ユネスコ未来共創プラットフォーム事務局や当該事務局の下に設置されたプラットフォーム共創ワーキンググループの会議への参画、意見交換
- ユースの視点からユネスコ活動について特集する"YouthNote"の執筆活動
- ユネスコウィークでのワークショップ企画、ユネスコ活動に取り組む関係者との交流

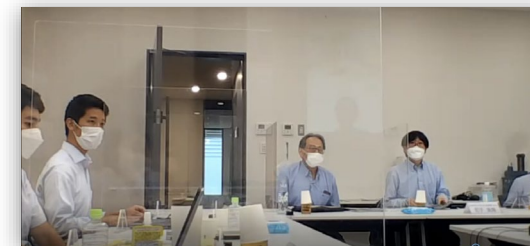
【振り返り】

未来共創プラットフォームワーキンググループへの参画を通じて、新規ポータルサイトにおける「団体リストの作成」や「ユースページ（仮称）の設置」について検討が進むなど、アクションプランの実現に大きく近づいている。

他方、ユネスコウィークについては、オンライン形式ということもあり、参加者間の交流や議論の活性化、イベント後のネットワークの広がり等の点で改善の余地が見られた。来年度以降は、対面形式のイベントも活用し、議論の活性化や全国のユネスコ活動に関わるユース世代間の横のつながりを強化を実現したい。



ユネスコ未来共創プラットフォームについてACCUに提案



ユネスコ未来共創プラットフォームWGにて意見交換

（ユネスコウィークでのワークショップ実績）

- 教育WG「Envisioning the Future 未来を描く舞台芸術 ～多文化共生における舞台芸術の可能性」
- 科学WG「隠岐SDGsカードで学ぶジオパークと私たちのつながり」
- 文化WG「わたしのまちのじまん／ふまん ～日常に隠れる創造性」
- 国際シンポジウム「地域から世界へ ～共創が生み出す新たな価値」（リーダー 長澤、小林が登壇）

その他の活動報告

○アジア太平洋地域教育大臣会合に参加

令和4年6月にタイ・バンコクにおいて開催された、「アジア太平洋地域教育大臣会合」（ユネスコ・日本政府支援）に次世代委員会から細谷優希（前リーダー）が参加。アジア諸国のユース2名とともに、教育を受ける権利の確保、21世紀に向けたカリキュラムの変革、ユースのエンパワーメント、十分な教育への投資等を訴えるステートメントを発表した。



（細谷優希、一番右）

○国連教育変革サミットに向けた国内諮問に参加

世界的な教育の危機に対応するため国連事務総長のイニシアティブの下、令和4年9月の国連総会中に首脳級が出席する国連教育変革サミットが開催された。当該サミットに向けては、各国に対し、教育変革へのコミットメントについて様々なステークホルダーを巻き込んでステートメントの作成を行うことが求められた。

これを踏まえ、令和4年5月30日の次世代委員会教育WG会合において、国連から示された5つのアクショントラック※に基づきユースの意見が聴取されたことから、「教科の教育に加えて、より実社会の課題と結びついた学習をしたり、多様なスキルを磨いていくことが重要と感じた。」などの意見を述べ、これを踏まえた総理ステートメントが作成された。

※国連教育変革サミット アクショントラック

- 1 誰も取り残さず、かつ、感染症対策が施されている学校
(Inclusive, equitable, safe and healthy schools)
- 2 人、仕事、持続可能な社会にとって必要な学習と技術
(Learning and skills for life, work and sustainable development)
- 3 教師、教育と専門性 (Teachers, teaching and the teaching profession)
- 4 デジタルラーニング (Digital learning)
- 5 教育財政 (Financing of education)